

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立播磨南高等学校

活動の実際（単元名）

「芸術基礎Ⅰ」の授業の一環として、本校芸術保育類型・美術系列1年と東はりま特別支援学校美術部による「コラボアート」を実施。今年度は8月2日に実施した。

指導目標

美術作品制作（今年度はステンドグラス）を通じて、異校種・異年齢の在籍児童生徒とのふれあいおよび交流をすることで、自己肯定感を高め、「社会人基礎力」を育む。また、生徒一人一人が、表現力（どのようなデザインにするかなどの伝え方を工夫するなど）を身に付ける。

事前学習

- ・7月9日に東はりま特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを講師に迎え、本校生徒に対し、コラボアートを行う意義と異校種・異年齢の生徒とのコミュニケーションのとり方について、事前学習を実施した。
- ・7月22日には両校の参加生徒全員で事前学習および顔合わせを行い、全体テーマ（今年度は「植物」）を決めたうえで、班ごとに制作する絵のデザインを考えた。

学習活動（具体的な取組）

- ・班ごとに着席し、活動についての説明を聞く。
- ・事前学習で作成したデザインをもとに、ガラス用絵の具を利用して、45cm×35cmのPET板に色をつける。
班は全部で6つに分かれて作成する。
- ・完成後、絵の具を乾かしている間に、発表者および発表内容を考える。
- ・作成後、班ごとに作品の発表を行う。

支援と留意点

- ・活動内容をホワイトボードにまとめ、提示しておく。
- ・デザインの枠組みは、当日までに本校生徒が作成。そうすることで当日どこにどの色を塗るかなど、班内で会話しながら活動できるようにする。
- ・各グループで工夫したポイントなどを、班員から聞き、まとめておく。
- ・発表している間は私語をせず、発表を聞く姿勢になるようにする。

評価

<思考・判断・表現>

人との関わりや支援について、自分自身がどのような行動をすべきかを考え、グループ内で意見を共有し、多様な思考・判断ができる力を身につける。

<関心・意欲・態度>

今後社会に出た時を想定し、相手の立場や状況に配慮し、関わろうとする意欲と態度を身につけている。

活動の様子



事前学習での話し合いをもとに本校が作成したデザインに色をつける様子。



作成後、班ごとに工夫したところや絵のポイントなどを発表する様子。

事後学習

事前学習から当日までの活動を通じての感想を書く。

成果と課題

事後学習で生徒が書いた感想には「コラボアートを通して、他の人と協力することの大切さを学んだ」「夜桜など、あまり自分では考えつかなかった意見が出たり、ひまわりがすごくカラフルになったり、全く想像していなかったが、そんな発想もあったのかと新しい発見だらけですごく楽しかった」などといった内容があった。この活動の意義を理解し、取り組んだものと考えられる。しかし、事後指導が感想を書くといった活動でとどまっているのと同時に、「交流及び共同学習」の活動にかかわる本校生徒が限定的であることが課題としてあげられる。